

2022 年度 学修成果報告

項目 I 専門分野を究めるための表現・意欲の分野

1. 目的と方法

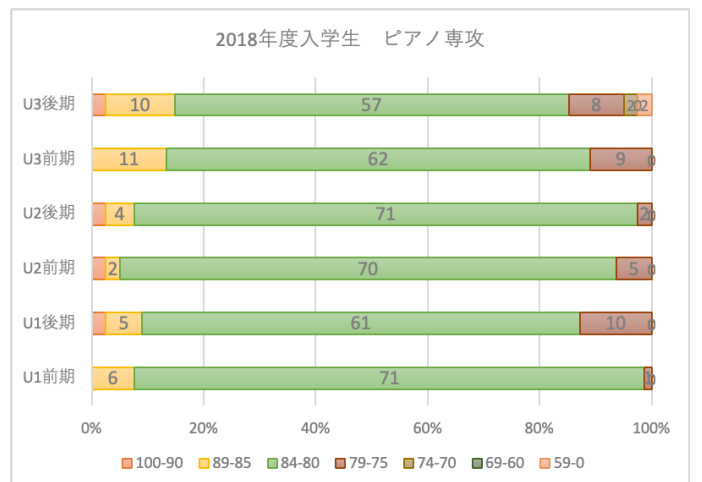
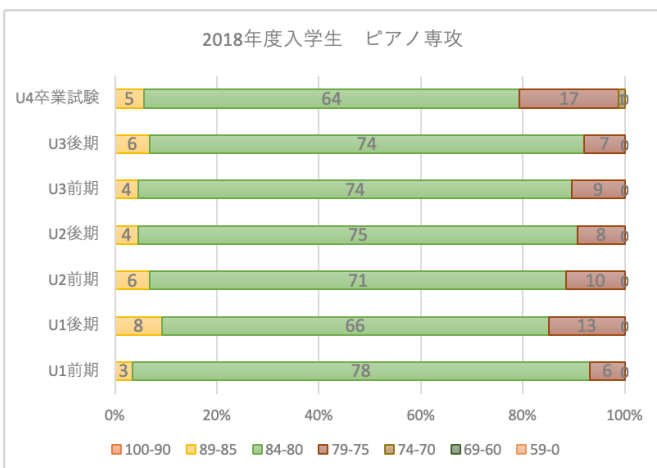
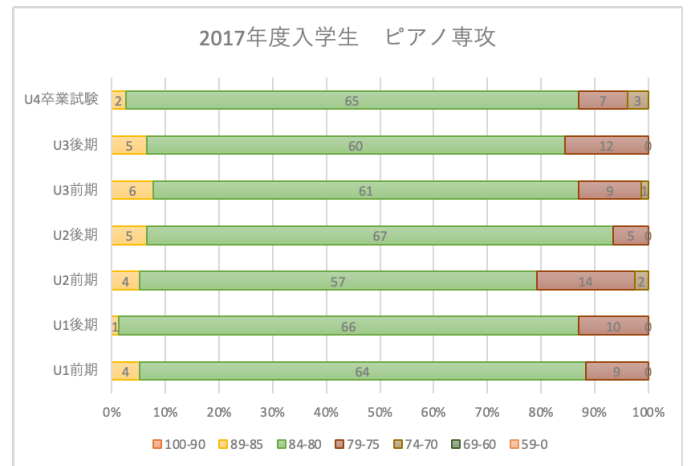
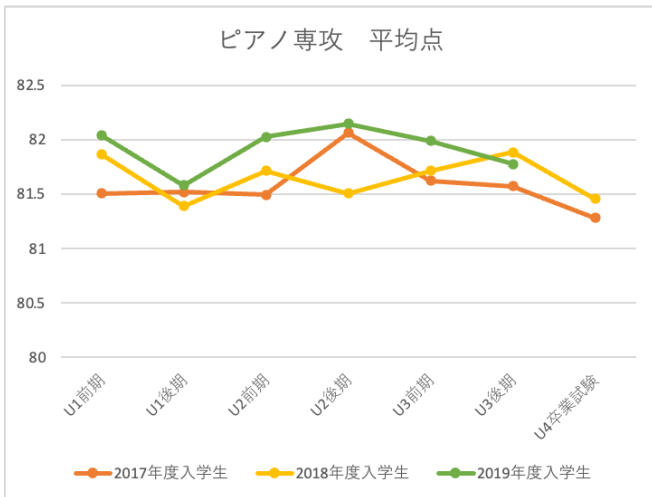
過去3年間（2017年～2019年度入学）の卒業生の専攻実技の学修状況を調べる

対象は、ある程度学生数が多いピアノ専攻とVI,Vla専攻生とする。統計的な処理を行うためである。実技試験得点分布と平均点を指標とする。

2. 結果

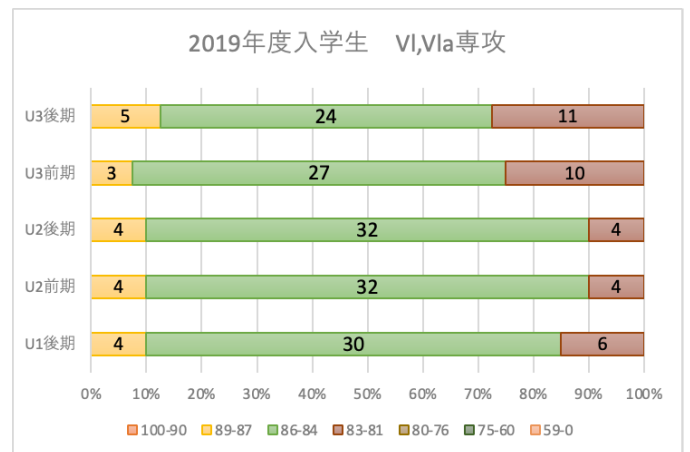
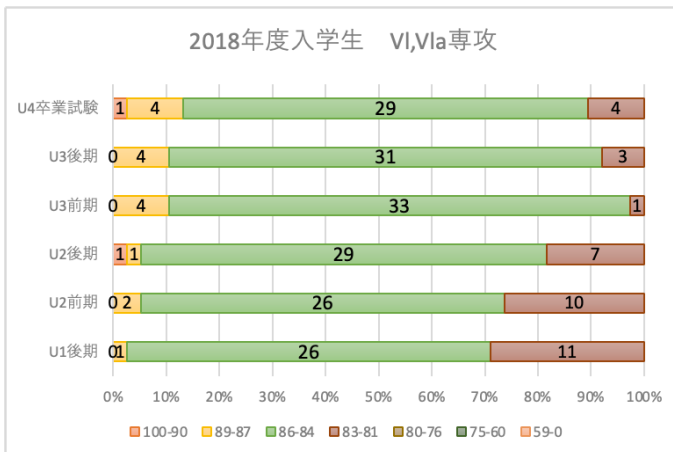
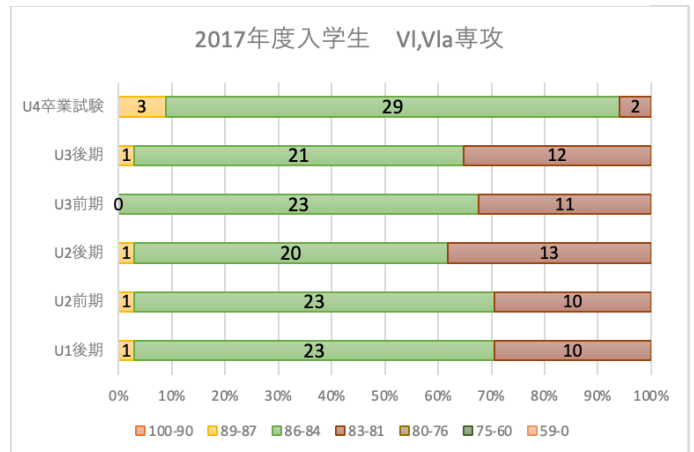
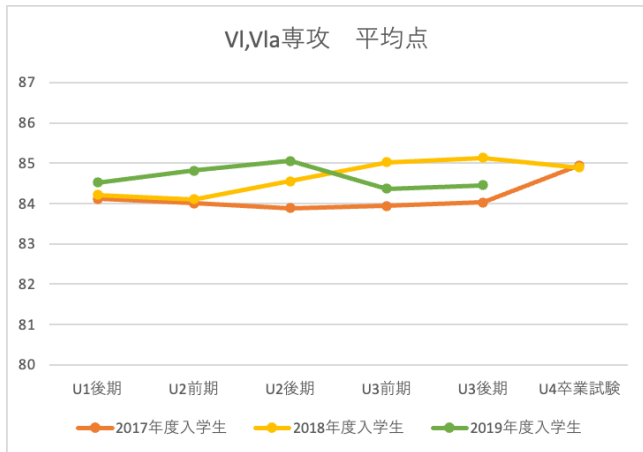
!" ピアノ専攻

3年間とも、入学時から卒業試験までの平均点の推移の変動はとても小さい。また、成績の分布にもほとんど変化がない。試験課題の難易度は学年が上がるごとに難しくなっていることから、全ての学生の学習が順調に進んでいると見ることができる。



VI,Vla 専攻

どの学年もほぼ同じ成績分布となっている。その中で卒業試験の得点はそれ以前の試験よりも高い傾向にある。課題は特に指定はしておらず自由曲であるが、選択する曲は実技担当の指導のもと難易度は上がっていることを鑑みると、順調に学習が進んでいると判断できる。

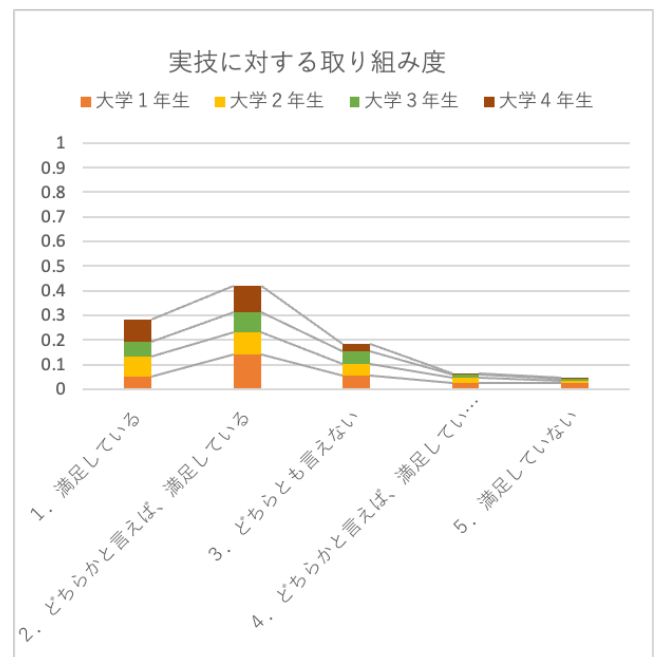
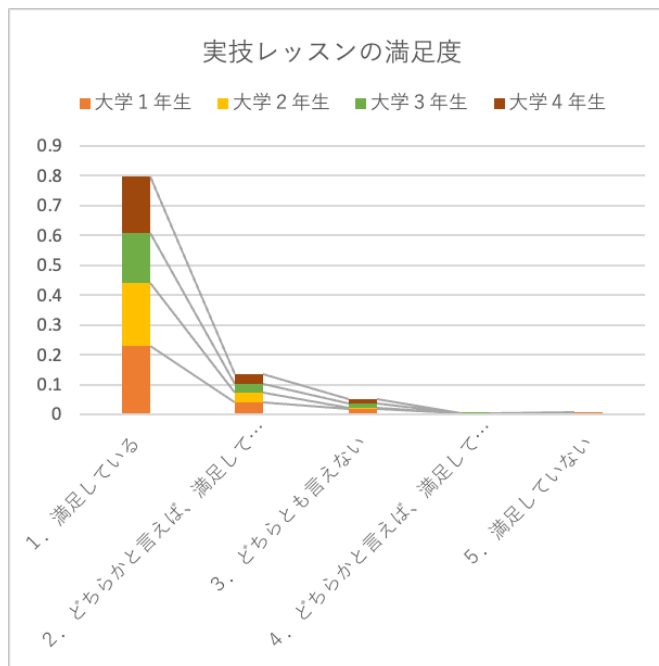


なお、他の専攻も上記の2専攻と同様の傾向にあった。

\$" 専攻実技レッスンの満足度

専攻実技に関しては、授業アンケートは実施していない。学生が回答をするにあたり支障がある場合が想定されるからである。そこで、学生アンケートという形でレッスンの満足度と自分自身の実技への取り組み度を調査した。

実技レッスンは8割の学生が満足しており、不満足な学生の割合は3%であった。一方、学生個人の实技への取り組みに関しては、レッスンの満足度よりは低いながら7割が概ね満足できると回答した。



項目 III 柔軟で汎用的な視点を持つための理解・判断の分野

1. 目的と方法

汎用性や柔軟性を高める目的である「語学と教養科目」の修得状況を調べた。

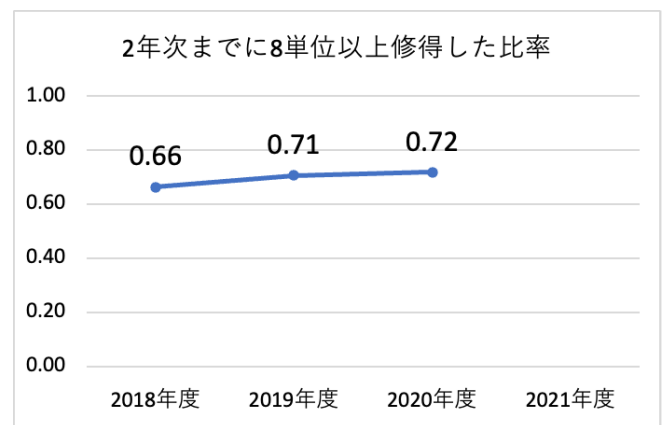
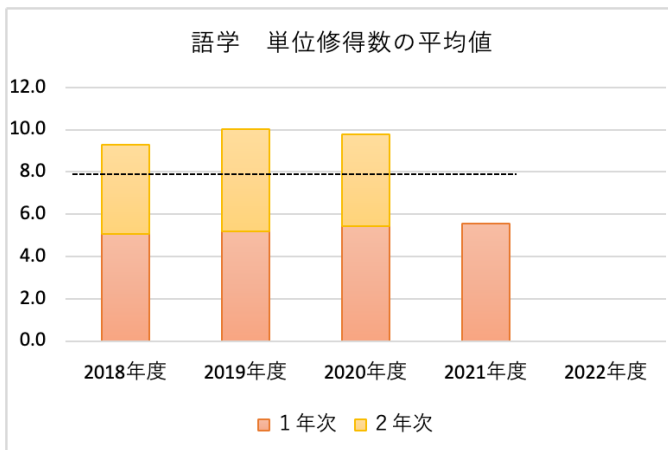
語学では、なるべく低学年で必修分の8単位を履修するよう指導している。そこで、2年次までに修得した語学の単位数を学習の進み方の指標とした。

教養科目としては、1年次に必修である「日本語表現」の単位取得状況で確認する。

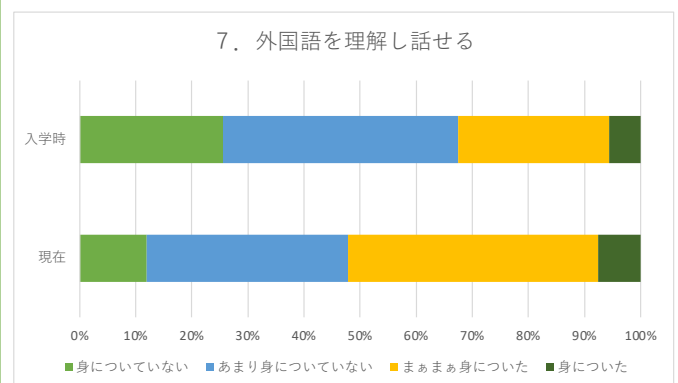
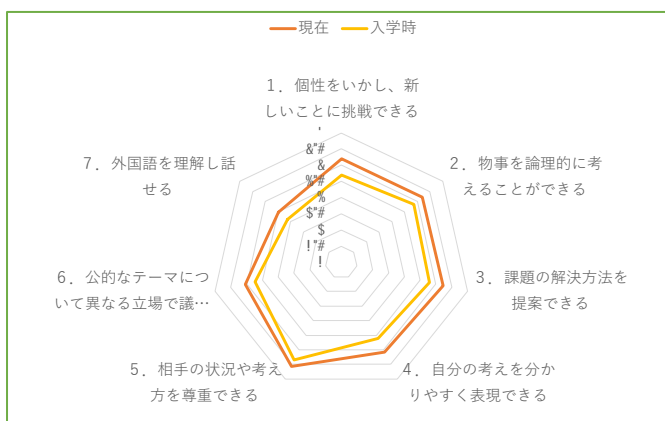
2. 結果

1) 語学

2年次までに約7割の学生が8単位取得しており、平均10単位弱を取得していることが確認できた。おおむね順調に学習が進んでいると判断できる。

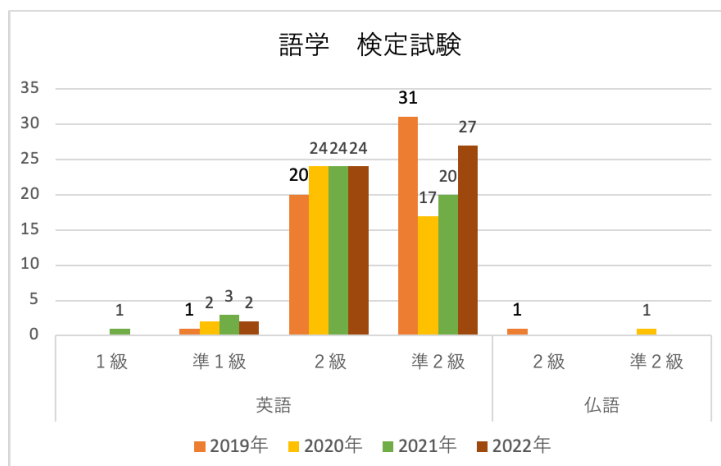


一方で、学生アンケートからは、「学国語を理解し話せる」という項目に関しては、他の項目よりも自己採点が低く、半数近くの学生が「身についたとは言えない」という回答をしている。入学時よりはよくなったものの、まだ十分ではないことが窺える。



学生アンケート (2022年度) より 全学年対象

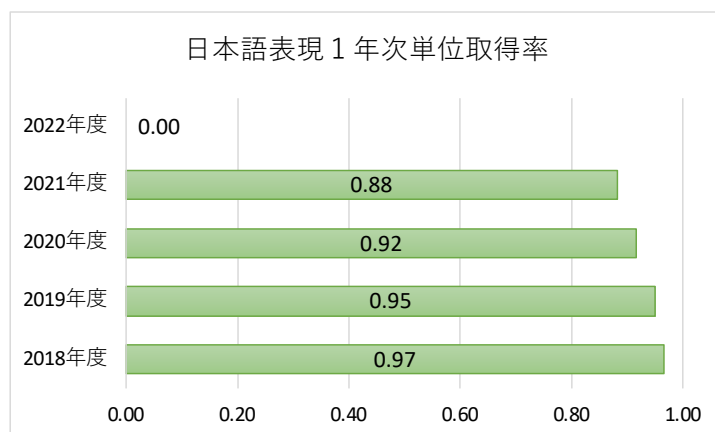
語学に関しては、検定試験合格でも単位を認定している。資格取得状況は右図のとおりである。例年 50 件ほどの申請が出されている。在校生数に対する比率は約 8 % とそれほど高くはないが、一定数は挑戦していることがわかる。



2) 日本語表現

ほとんどの学生が1年次に単位を取得していることがわかった。しかしながらこの数年で取得率が下がってきている。令和3、4年度は、遠隔授業形式であったこともあり、対面と遠隔の両立が苦手な学生にとっては難しかったのが理由の一つであろう。

もう一つとしては、文章読解力や論じることを苦手とする学生が増加してきたとも考えられる。音楽史でも同様の事柄が浮き彫りとなっており、今後力を入れる分野と認識した。



項目 IV 専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造するための関心・創造的思考の分野

1. 目的と方法

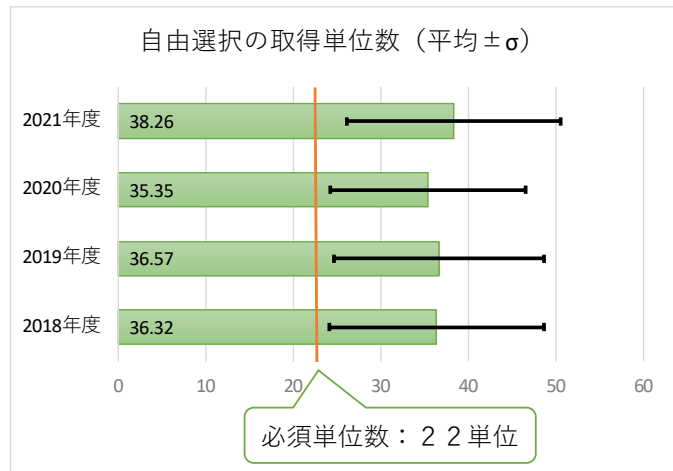
学修成果の「専門の枠と超える」ことを目的に、自由選択枠を設けている。在学中にどれほどの学びをしているのかを調査した。

卒業時に取得した自由選択枠（必修の語学、教養、専門単位以外）の取得単位数を指標とする。

2. 結果

1) 自由選択枠の取得単位数

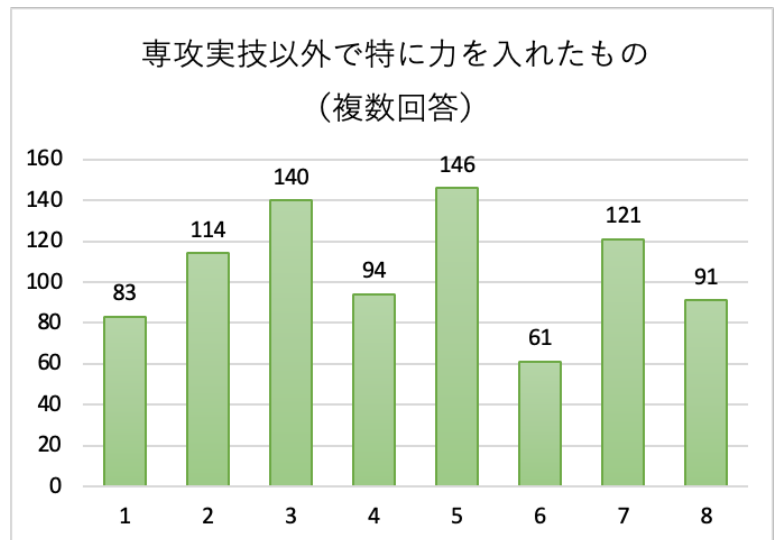
22単位必修のところ、35単位以上を修得していることがわかる。この数年同じ傾向にあることから、コロナ禍の2年間も履修可能な科目、分野を選択して学びを続けていたと判断できる。



2) 興味関心の方向

専攻実技以外に力を入れた事柄について、アンケート形式で調査した。平均して一人当たり2から3項目を挙げており、専攻以外の科目への関心は少ない傾向はあるものの、さまざまな事柄に興味を持っていることがわかる。

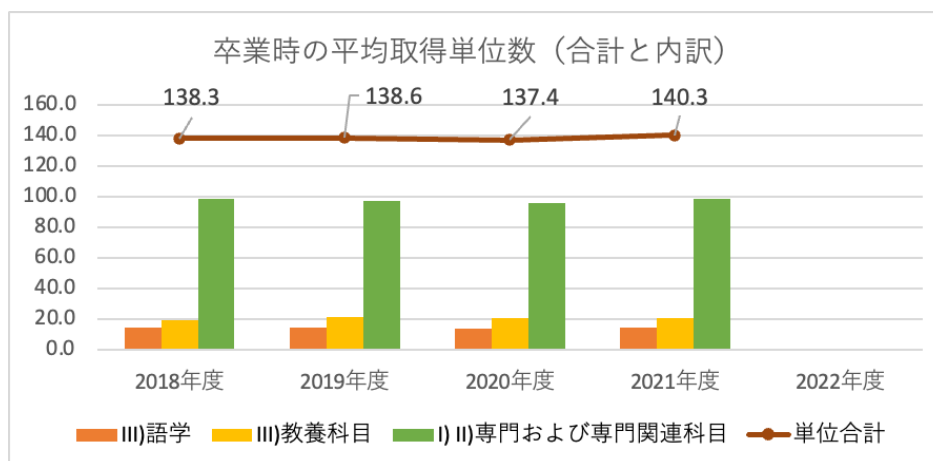
1	音楽理論
2	ソルフェージュ
3	専攻に関連した科目（必修科目など）
4	語学
5	アンサンブル・オーケストラ
6	専攻以外の科目（副科、他専攻の科目など）
7	友人との交流
8	学外での活動



その他

1. 卒業時の単位修得状況

卒業に必要な取得単位は124単位のところ、この数年は平均約138単位を修得しており、十分修得していると判断できる。内訳としては学修成果の項目I)とII)にあたる「専門（専攻実技）および専門関連科目」が多いが、項目III)の「語学、教養科目」も必修部分以上を修得している。結果的に項目IV)「選択科目」は他の3項目全てが含まれていることがわかる。



I)II)III)は学修成果の項目を示している

2. 免許・資格取得状況

教職免許取得状況は以下のとおりである。

中学校一種免許は4割から5割、高校一種免許は6割以上が取得しており、免許取得に興味関心が高いと言える。

